



受験体験 INTERVIEW ①



勉強は苦手…部活も忙しい…だからこそ長期スパンで挑むことに！
大学の公務員講座を利用して、情報収集もぬかりなく。
どれだけ事前準備できるかが合格のカギ！

答えてくれたのは…

受験区分 … 一般区分 A 男性

大阪府出身

県外私立大学

法学部

現役合格



元々警察官になりたかったので、大学1回生のときから少しずつ対策を始めました。勉強は苦手な上、体育会系の部活に入っていたので、時間をかけて対策をしないとダメだと考え、1回生のときは大学で実施されていた分野別の対策で、数的推理・判断推理の勉強から始めました。

大学3回生の夏からは、大学での本格的な公務員講座を利用して毎日2、3時間程度勉強しました。公務員講座は『必ず一番前の列で授業を受ける！』をモットーに取り組みました。そうすることで、スマホなどを触らず勉強に集中できるので、試験に向け意識も高まるし、知識量もどんどん増えていったと感じました。

1回生からコツコツやってきたので、正直勉強に疲れてしまったときもあります。3回生のお正月ころ、力試しで受験した模試では良い結果が出ず、更に部活も忙しかったので心が折れそうになりました。そんなときに参加した兵庫県警のインターンシップが『警察官になりたい』という気持ちを、より具体的な『兵庫県の警察官になりたい！』という気持ちへ切り替えるきっかけになり、苦しいときを乗り越えることが出来ました。

また、市販の「警視庁I類過去問題集」も使用しました。これは、公務員講座の先生から「警視庁の問題（難易度）で30点獲ればどこの県も対応できる」と聞いたからです。情報が正しかったかはわかりませんが、色々な情報を収集するのも有効な作戦だと思います。

episode 1 一次試験はド緊張！！ 帰り道…不安が最高潮に…

とにかく警察官になりたい一心で、兵庫県以外にも3つの試験を受験しました。兵庫県警察の一次試験より前に、他の一次試験を経験していたにもかかわらず【第一志望の兵庫県】となると、もの凄く緊張しました。

教養試験は何度も見直しをしましたが、試験会場からの帰り道で、他の受験生が答え合わせをしているのを耳にして『答えが違うやん…』と感じ、終わった直後は不安が大きく、合格できている自信はありませんでした。

しかし、練習を兼ねて受験していた他の一次試験結果が先に発表され、全て【合格】だったので、『兵庫県警も絶対に受かっている』と信じて待つことができました。



episode 2 個人面接は手応え十分！しかし… 集団面接は不完全燃焼…

面接に向けては「数をこなせば力がつく」と聞いていたので、公務員講座の先生に面接官役をしてもらって、一次試験前から何度も想定練習をしました。心掛けたことは『面接官を1度は笑わせること』『熱意ある本心を伝えること』です！

個人面接では、練習の甲斐あって、ありのままの気持ちを上手く伝えられたかなと思います。

『面接官を笑わせること』については、熱一杯に志望動機を語ったところ面接官が笑ってくれたので、目標達成でした。他の受験者より印象に残るアピールができたんじゃないかと満足できました。

一方、集団面接では自分の考えていた意見と同じ意見を、他の受験者の方が先に発言してしまったので、『同じ意見じゃだめだ、違う意見を言わなきゃ』と焦りましたが、すぐには思いつかず、受け身になってしまったことに後悔しました。

集団面接では『積極的になりすぎず、それでいて集団の雰囲気に合わせて立ち回り方ができれば良かったな…』と思いました。



県外者の場合、面接官を納得させられる回答ができるよう、準備を怠ってはいけません。嘘偽りなく、自分の本心を全てさらけ出すくらいの気持ちで挑むべきだと感じました。想定していない質問をされたときに「わかりません」と答えることや、黙りこんでしまうことは絶対にせず、考えを絞りだす努力をしましょう。



受験体験 INTERVIEW ②



大学の授業や研究に追われ、勉強のスタートが遅れた…
理系じゃなければ、到底間に合わなかったかも…
それでも焦らず、毎日継続して積み重ねることで突破！

答えてくれたのは…

受験区分 … 一般区分 A 女性

兵庫県出身

県外国公立大学

工学部

現役合格



大学1回生の頃から、警察官の仕事に興味があったので、警察官になるためにどのような試験があるのか、試験内容はどのようなものかなどを市販されている本を読んで調べ、おおまかに試験のイメージを作っていました。

大学3回生の夏、同じ志を持つ同級生と出会うきっかけがあり、「公務員講座を受けていて、既に勉強をはじめている」との話を聞いて『遅れをとっている』と焦りを感じました。しかし、大学での授業や研究が忙しかったので、その後も試験勉強は始められずにいました。

結局、本格的に勉強を始めたのは大学4回生になる前の春休み、2月に入った頃からです。

教養試験には様々な分野があり、中でも人文分野（歴史・地理系など）が苦手だったので、この分野を中心に勉強しました。

公務員講座などは利用せず、市販の教材1冊を繰り返し使いました。

大学の課題もバイトもない日であれば、1日5時間程勉強する日もありましたが、平均すると1日1時間程度でした。短い時間でも毎日コツコツ、少しずつでも知識を積み重ねることが大切だと思いました。

理系学部だったので、一般的に苦手な方が多い数的推理・判断推理などの分野は『問題ないだろう』とノータッチ。

現代文も、文章を読むことに苦手意識がなかったので、ノータッチでした。

episode 1 ノータッチは超危険！！ 教養試験は時間配分に失敗…

現代文、数的推理・判断推理の対策を全くせず挑んだので、問題を開いたとき、これらの分野の問題数に焦りを感じました。解いていくと1問1問、時間がかかり、苦手ではないからといってノータッチで挑むのは無謀だったと後悔しました。全問題を解くのに試験時間いっぱいまで使ってしまったので、見直しは全くできませんでした。もちろん、手応えなどある訳なし…。

試験後は『受かっている！』と信じるしかなく、二次試験の対策へと気持ちを切り替えました。



episode 2 面接対策は、丸暗記せずに、ざっくりとイメージ作りを重視！

二次試験対策は完全に一次が終わったあとから始めました。

大学生になっても週一でバスケットボールをやっていたのと、大学3回生の初めから、走力と腕力をつけるためにジム通いをしていたので、体力検査は不安はなく挑めました。

面接の準備は、市販の面接対策本を読んで過去にどのような質問があったか、予想される質問を一通り読んでみて、自分なりの対応を考えました。本の情報以外に「丸暗記はしない方がいい、ダラダラ答えない、自分の言葉で考えてそのときに回答するべき」と、知人からアドバイスを貰っていたので、面接が得意なタイプではないのですが『何となく、こんな事を言おうかな』くらいにイメージし、文章を丸暗記するようなことはしませんでした。

二次試験当日は、『キビキビ動くこと』を一番に心掛けました。

個人面接では「警察学校はともしんどいけど、耐えられる？」と質問され「警察官になりたい気持ちがあれば、どんなにしんどくても耐えられます！」と自信満々に答えました。

集団面接は、別の受験者が司会を名乗り出てくれたので、周りの意見をしっかり聞いて、そのうえで自分の意見を発言することができました。



警察官になるための勉強はもちろん、警察学校に入ると柔剣道、逮捕術、(楯を把持しての)走訓練など体力を必要とする授業が多いので、受験対策としてだけではなく運動する習慣をつけておくべきだったなと思います。勉強面では、教材1冊に絞り込まず、苦手分野に関しては2、3冊を使用し、多くの問題に触れるべきだったと思っています。